

甲 第 号

松原 翔 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	大林 千穂
論文審査担当者	委員	准教授	田中 利洋
	委員(指導教員)	准教授	川口 龍二

### 主論文

Subtype I (intrinsic) adenomyosis is an independent risk factor for dienogest-related serious unpredictable bleeding in patients with symptomatic adenomyosis.

子宮内膜側に発症する(Subtype1)子宮腺筋症は黄体ホルモン療法による多量性器出血の危険因子である

Sho Matsubara, Ryuji Kawaguchi, Mika Akinishi, Mika Nagayasu, Kana Iwai, Emiko

Niino, Yuki Yamada, Yasuhito Tanase, Hiroshi Kobayashi

Scientific reports. 2019 Nov 27;9(1):17654.

## 論文審査の要旨

本研究は子宮腺筋症の黄体ホルモン療法として広く使用されているジェノゲストの副作用である多量性器出血の危険因子を抽出することを目的とする後方視的観察研究である。子宮腺筋症に対してジェノゲストを処方した 37 例を対象とした。ジェノゲスト内服中に Hb 値が 2g/dl 以上低下するか、Hb 値の最低値が 8g/dl 以下となった出血群は 14 例、多量出血が生じなかった継続群は 23 例であった。2 群間で年齢、BMI、分娩回数、帝王切開回数、内膜搔把既往の有無、卵巣チョコレート嚢胞の合併、子宮筋腫の合併、子宮筋層厚、子宮腺筋症厚、子宮底長、ジェノゲスト内服期間、Kishi 分類について比較検討し、Kishi 分類 Subtype1（内膜側病変）が多量性器出血のリスクファクターとして抽出された ( $p=0.012$ )。子宮腺筋症に対してジェノゲストを使用する際には子宮腺筋症の局在に注意する必要性が示唆された。

公聴会では subtype 1 で出血頻度が高くなる原因の考察、MRI 以外でのスクリーニング方法、個別化医療の可能性、びまん性分布症例に対するジェノゲスト適応の是非について質疑があり、いずれの質問に対しても的確に回答された。また、今後の展望として、子宮腺筋 Subtype1 の発生機序を解明する基礎研究が示された。

罹患率の高い子宮腺筋症に対するホルモン療法の安全性の検討は臨床的に意義が深く、婦人科診療に寄与する研究と考えられた。

## 参 考 論 文

1. Mechanisms Underlying Adenomyosis-Related Fibrogenesis  
Kobayashi H, Kishi Y, Matsubara S. Gynecologic and obstetric investigation. 2020;85(1):1-12.
2. A Classification Proposal for Adenomyosis Based on Magnetic Resonance Imaging  
Kobayashi H, Matsubara S. Gynecologic and obstetric investigation. 2020;85(2):118-126.
3. Magnetic resonance relaxometry improves the accuracy of conventional MRI in the diagnosis of endometriosis-associated ovarian cancer: A case report  
Matsubara S, Kawahara N, Horie A, Murakami R, Horikawa N, Sumida D, Wada T, Maehana T, Yamawaki A, Ichikawa M, Yoshimoto C, Mandai M, Kobayashi H. Mol Clin Oncol. 2019 Sep;11(3):296-300.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに産婦人科学の進歩に寄与する  
ところが大きいと認める。

令和3年9月14日

学位審査委員長

病理診断学

教授 大林 千穂

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

准教授 田中 利洋

学位審査委員(指導教員)

女性生殖器病態制御医学

准教授 川口 龍二